

DATA FILE



名 前	CORDIERITE (コーディアライト) / 堇青石
化学組成	$Mg_2Al_4Si_5O_{18}$
色	濃青色、灰青色、堇色など
光 沢	ガラス光沢
蛍 光	なし
条 痕	白色
劈 開	明瞭
断 口	貝殻状
硬 度	7 ~ 7.5
比 重	2.5 ~ 2.7

きん せい せき

堇青石

CORDIERITE

英名の「コーディアライト」は、18世紀末に堇青石を紹介したフランスの地質学者ピエール・L・A・コルディエ（1777～1861年）にちなんでつけられた。

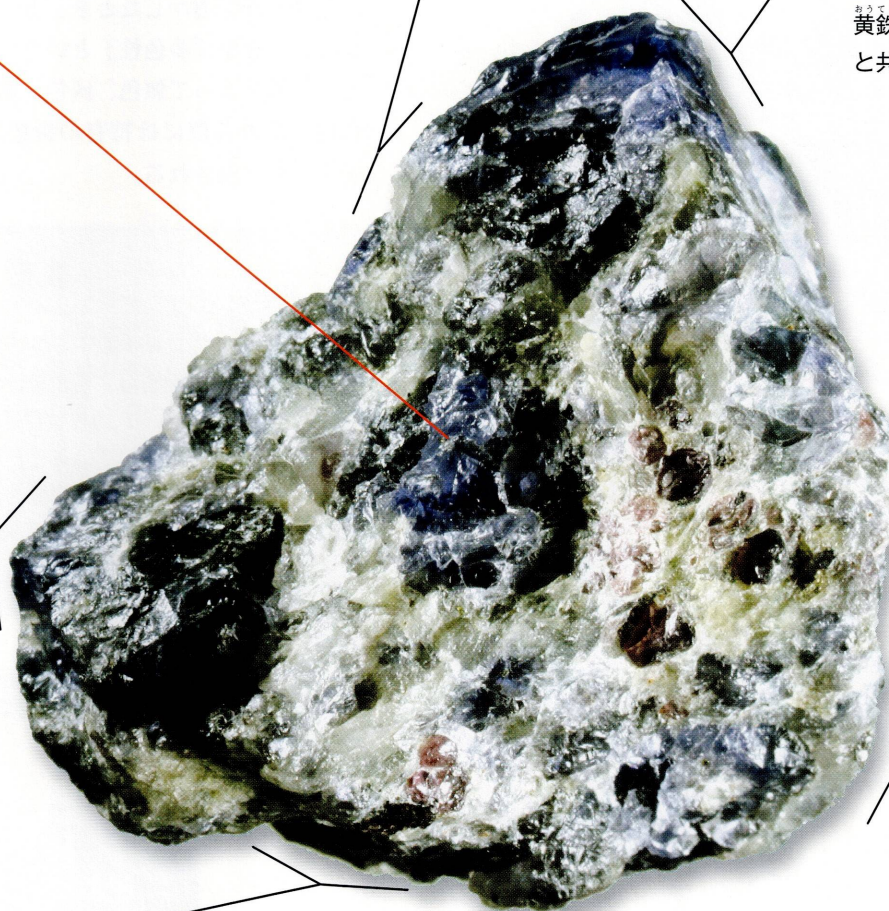
ざくろ石のほか、石英、白雲母、黒雲母、黄鉄鉱、緑泥石などと共生する。

ざくろ石をともなって産出した、塊状の堇青石。ブラジル・ミナスジェライス産。

劈開は明瞭で、ハンマーでたたくと貝殻状の断口を示す。

アルミニウムを豊富に含む岩石が高温で変成してできた片麻岩や片岩、ペグマタイトから産出する。

比重は鉄の含有量によって変化する。



ミネラルファイル

ケイ酸塩鉱物

さまざまな通称名

キ 堇 青 石

堇青石は、名前のとおり主に青色や堇色をした鉱物で、質の良い結晶は装飾品として幅広く利用されている。その美しい色合いから「ウォーター・サファイア」という通称名のほか、ギリシャ語で「すみれ石」を意味する「アイオライト」、多色性を持つことから「ダイクロイズム」（二色性）を由来とした「ダイクロアイト」などの別名も存在。一方、赤鉄鉱を含んでいるものは赤みを帯びることが多く、スリランカなどで見られる赤みの特に強いものは「ブラッドショット・アイオライト」と呼ばれている。



◀石英中に生成した堇青石の六角柱状結晶。宮城県川崎町・安達産。



▲堇青石の仮晶である桜石。中身は絹雲母に変化している。京都府亀岡市湯の花産。

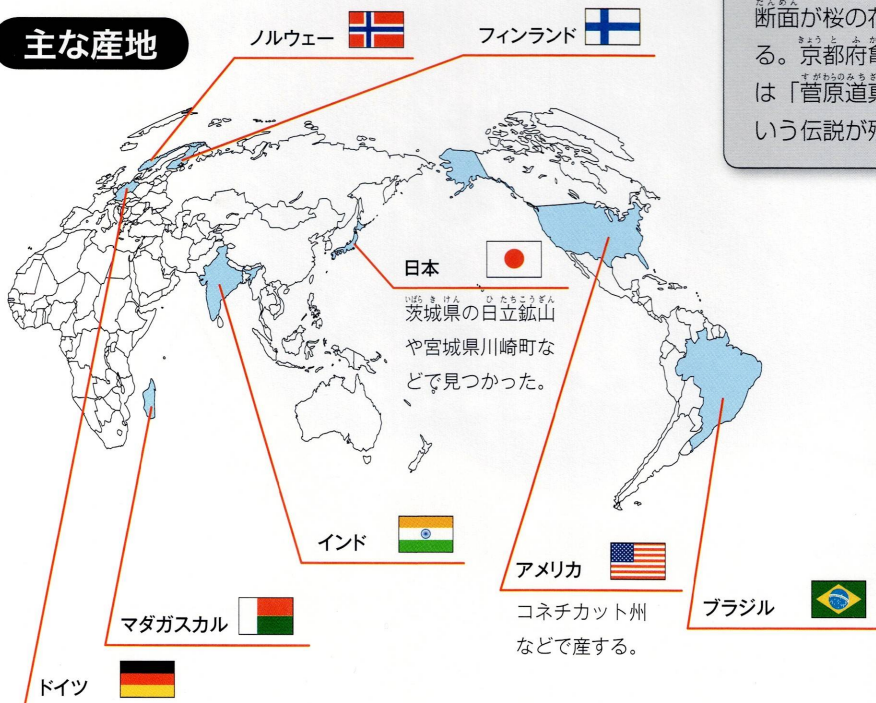
顕著な多色性

鉱物を光に透かしたとき、方向によって色合いが変わって見えることを「多色性」という。堇青石の多色性は特に著しく、角度によって無色、灰色、黄色などに見えるので、宝石に加工される際には特有の青色が正面に見えるようにカットニングが施される。

桜石

熱変成を受けた粘板岩中では、堇青石は結晶の外見を残したまま中身だけ白雲母や絹雲母、緑泥石などに変化することがある。このとき、六角柱状に近い形であらわれるものは、断面が桜の花びらに似ていることから「桜石」と呼ばれている。京都府亀岡市は桜石の産地として有名であり、桜天神には「菅原道真が残した桜の樹の下から桜石が見つかった」という伝説が残っている。

主な産地



▼フィンランドで産出した堇青石。

